

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278800477		
法人名	社会福祉法人 高嶺福祉会		
事業所名	グループホーム なぎホーム白浜		
所在地	千葉県南房総市白浜町根本1736-2		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>協力医療機関と連携を図り、安心してできる限り終の棲家となるよう日々取り組んでおります 身体機能の低下等(重度化)になられても他の施設等へ移動することなく、最後まで暮らすことができます。 施設は穏やかな環境の中にあるため、日々落ち着いて暮らすことができると思われます。 また、地域住民の方も非常に協力的な方々ばかりですので過ごしやすいと思います。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://taka-mine.sakura.ne.jp/hq0/shirahama/abutshirahama">http://taka-mine.sakura.ne.jp/hq0/shirahama/abutshirahama</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームなぎホーム白浜」は、「あなたがいて、私がいる」という法人理念を明記し、医療・高齢者福祉・障がい者支援を通じて共に生きる社会の実現を目指す事を使命としている。また、「認知症の状態にあっても自立した日常生活を営むことを支援する」という運営方針を掲げ、全職員が理念や運営方針を意識したケアの実践に取り組んでいる。近隣に同法人運営の障がい者施設があり、合同での行事開催や日頃の交流を密にし、入居者の生活活性化に繋げている。食事提供においては、地域の食材や旬を取り入れながら、職員による完全手作りの食事が提供されている。また、障がい者施設の畑で採れた食材も利用することもあり、入居者から好評を得ている。現在はコロナ禍の為、外部の人との交流は中止しているが、近隣の散歩やドライブ等は実施している。また、自治会の回覧版のやり取りや清掃活動は継続的に行う等、地域との繋がりが大切に行っている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和4年4月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「あなたがいて、私がいる」や、事業所の運営方針である「認知症の状態にあっても自立した日常生活を営むことを支援する」ということを掲げている。この事は日々の支援の中にも浸透し実践されている。	「あなたがいて、私がいる」という法人理念を明記し、医療・高齢者福祉・障がい者支援を通じて共に生きる社会の実現を目指す事を使命としている。また、「認知症の状態にあっても自立した日常生活を営むことを支援する」という運営方針を掲げ、全職員が理念や運営方針を意識したケアの実践に取り組んでいる。理念や運営方針を施設内に掲示すると共に、ホームページ等に掲載しており、内部・外部の人への周知を図っている。理念については、入職時の新人研修プログラムに組み込むと共に、会議や研修等を通じて理解浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりは開設当初から事業所運営の基礎として考えており、様々な活動において積極的に利用者や職員は交流を図っている。例えば、地域の奉仕活動である、集会所の清掃や祭礼などさまざまな場面で日常敵に交流をしている。	地域住民とは挨拶や声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加等を通じて、交流を図っている。現在はコロナ禍の為、外部の人との交流は中止しているが、近隣の散歩やドライブ等は実施している。また、自治会の回覧版のやり取りや清掃活動は継続的に行う等、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の支援や理解を地域へ深めるということは、事業所としては常にその方と地域に出ていくということが一番の理解を深める事と考え、積極的に利用者とともに地域へでていくことを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われたことは、すぐにサービスへ反映している。会議の内容は事業所スタッフ会議にて共有を行っていることから、スタッフ全体で共有できている。本年度はコロナ感染症から各担当者へ報告書での運営推進会議の実施としている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員・地区会長・入居者家族等が構成員となり、年6回開催している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換等を行っている。挙げた意見等については、職員会議にて検討・共有を図り、施設運営に活かしている。今年度はコロナ禍の為、後期の運営推進会議は構成員に報告書を配布し、施設の状況や活動報告を行う等、施設の理解促進やサービスの向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保の利用者が6名いることから市の担当者とも状況報告などを等を随時おこなっている。介護保険代行業務やその他不明な点等は電話で問い合わせるなどしている。	市の担当者とは随時報告や相談等を行うと共に、市職員の来訪もあり、日頃から連携を深めている。また、社会福祉協議会とは、情報提供や共有を図る等、問題解決に向け取り組んでいる。コロナ禍の為、市とは、電話・メール・FAXを通して連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての指針の確認や研修内容を日常的に共有し実践を行っている。	身体拘束排除における指針やマニュアルを整備していると共に、定期的に身体拘束廃止委員会を開催している。また、内部研修を実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。年に一回の内部研修において、支援方法の確認や検討を行っており、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、スタッフへの共有・教育も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に社会福祉協議会の制度も活用し支援を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な対応を行い署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族の意見や日常的な面会時における意見交換などを行っている。	家族の来訪時や電話連絡・運営推進会議等を通じて、意見や要望等を確認している。挙げた意見や要望においては、会議や連絡ノート等を活用し、全職員で共有を図る等、適切な支援に繋げている。現在、コロナ禍の為、シールドや窓越し面会及び電話・手紙・メール等を活用し、意見や要望を確認している。毎月、入居者個別に日々の生活や健康状態を「なぎホーム白浜だより」で伝えると共に、写真も同封する等、理解促進及び信頼関係構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議(地域部長・係長・主任)やリーダー、主任会議(リーダー・主任・係長)及びスタッフ会議(職員・主任・係長)を活用し積極的に意見や提案を受け、業務に反映を行っている。	定期的に役職に応じた様々な会議を開催し、職員の意見・提案を確認する機会を設けている。また、年2回、個人面談を実施しており、職員一人ひとりの目標設定や達成状況の確認を行う等、ケアの質向上や職員一人ひとりの立場に配慮した人材育成に繋げている。現在コロナ禍の為、外部研修への参加は控えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績評価制度(目標管理制度)を運用し向上心をもって勤務できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画の整備や個別での研修への参加または、コロナ感染症対策によるインターネットを使用した研修を受け向上が図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域におけるネットワークへ参加し、同業種だけではなく多職種とも交流を図るようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の相談、アセスメント、担当者会議において出来る限り関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談、アセスメント、担当者会議において出来る限り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援を見極め対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り残された能力の見極めを行い、一方的な支援にならない共生型な支援をおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に預けたから良いと言う考えではなく、月に一回は施設に来所して頂き共に考え支えていくことを実践していただく。コロナ感染症の拡大を考慮し面会を窓越しでの面会としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へのドライブや知人の面会等をおこなっている。	希望に応じて、知人・友人・家族の面会を受け入れており、馴染みの関係継続に配慮している。また、個別や少人数での買い物やドライブを行う等、居者の希望に添った柔軟な外出支援を行っている。現在はコロナ禍の為、家族以外の来訪は中止している。しかし、電話・手紙・メール等でのやり取りを推奨する等、関係が途切れないよう支援している。また、家族や隣接の障がい者施設の利用者とは、感染対策を講じながら関係継続に配慮し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合い関係が構築できるよう職員は様々な場面を用意し、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は死亡による退居となっている。本人のフォローはないが、そのような状況ができたときは、支援に努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の把握に努めるのは勿論のこと、本人の思いが訴えとして形にでなかったとしても気持ちに寄り添い代弁者となるよう担当制を導入している。	本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、医療機関や他のサービス事業所から情報提供を受ける等、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議や連絡ノート等を活用して、全職員が常に新しい情報を共有できるよう努めている。	

【千葉県】グループホーム なぎホーム白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時における把握や、サービス開始後 においても日常的に知る取り組みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々モニタリングし記録、共有をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、本人、家族、管理者、医療機関等の意見を聞きながら計画を作成している。	日頃から、アセスメントやコミュニケーションを通して、情報の収集及び共有に努めている。本人や家族の意向を確認した上で、会議で意見交換や検討を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを実施する等、現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ユニット介護記録のシステムが導入されており1階ユニットの入居者情報でも2階で共有できるようになっている、入居者ひとりひとり詳細に諸記録へのこし、次に繋がるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	偏った考えにならないように様々な意見を聞き、柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握等のため包括との連携により地域資源を把握し活用できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診での診察が最低でも月に1回あり健康状態を報告している。緊急の容態の変化に対しても24時間、365日の支援体制を組んでいる。	希望のかかりつけ医への受診を支援すると共に、往診は2か所の内科医が実施しており、適切な医療受診を行っている。受診記録を作成し、家族への報告・情報の共有に活用している。また、訪問看護ステーションと契約しており、看護師による健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行っており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の変化を協力医療機関へ連絡し主治医・看護師と連携を密にとっている。また、訪問看護師が最低週一回来所し全利用者の健康管理を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療が終われば生活の場である施設へ早期に戻ってきて頂くことが本人の低下を防ぐと考え、入院後も頻繁に入院先への相談員や看護師・医師と密に連携を行っている。コロナ禍であり入院中の本人との面会は困難であり、電話での相談員や医師との連携となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、初回アセスメント時や定期的な家族との終末期の考え方の共有を行っている。	終末期・重度化における施設方針を契約時に説明している。重度化や終末期に向けた支援が必要になった場合には、家族や医師と相談し、意向に沿った支援に努めると共に、家族の希望に応じた対応ができるよう、各関係機関との連携体制も整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い実践できる体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に訓練を行っている。また、地域の区長等も協力的に参加して頂いている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置しており、災害時に備えている。避難訓練を年に2回実施しており、日中想定訓練・夜間想定訓練・消火器訓練・通報訓練等を通して、状況に応じた対応方法を身に付けている。また、災害時における地域との協力体制も構築されている。その他、昨年度は発電機を購入しており、災害発生時の入居者や職員の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する支援を行っている。人前で大声でトイレ誘導をしないといった他人に知られたいくない事は、利用者と職員の1体1で退所していくよう注意を払っている。	全職員が理念に基づき、入居者一人ひとりの尊厳を意識した対応に努めている。また、内部研修や会議等で尊厳の尊重やプライバシー確保の重要性について、周知・指導が行われており、人権意識の理解浸透を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定できるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人が生活の主体者となるよう希望を聞くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の把握を行い実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出しや調理・片付けを本人の希望を聞きながら一緒にできるときは行って本人に役割りや、やりがいを持てるように支援している。	献立作成・食材の買出し・調理等は職員が行っており、地域の食材や旬を取り入れた食事が提供されている。食事の準備から食後の片付けは、職員と入居者が共同で行っている。現在、コロナ禍の為、外食会や隣接の障がい者施設利用者との食事会は中止しているが、行事食の提供・手作りおやつ・テイクアウト等は引き続き実施しており、食に対する楽しみを支援している。食事は全て手作りで、障がい者施設の畑で採れた食材も利用する等、入居者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口にはいるものの把握(食事・水分等)は日々把握し、状態の変化にもすぐ気づけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、訪問歯科の対応をしていることから口腔ケアについていつでも体制が整っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を行えるよう取り組んでいる。各利用者の排泄パターンが違うため職員は排泄表でチェックしている。	排泄状況を記録しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にてトイレでの排泄を支援している。また、日頃から、食事・水分・運動等を工夫し、必要時には、医師や看護師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課等にて出来る限り運動が行われるよう体操や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を考慮し毎回体調や様子を確認しながら入浴を行っている。	入居者の希望や状況に応じて、入浴機会を確保すると共に、清拭・部分浴・シャワー浴等も実施しており、清潔の保持に努めている。機械浴槽が設置されており、身体状況に応じた入浴支援も可能となっている。また、入浴剤や季節の草花・果実を活用しており、入浴がより楽しく、気分転換となるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の状況により、日々定時で休まれる方や日中活動的に過ごす方など、個々の状況に個々の状況に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者個々の薬について把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味嗜好や個別のニーズへの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外に出て散歩を行えるように努めている。また、車を使ったドライブも定期的に行っている。	入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、定期的に入居者の希望や季節等に考慮しながら外出行事を企画・実践しており、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。隣接の障がい者施設との合同行事等で交流の機会があり、入居者の楽しみとなっている。現在、コロナ禍の為、外出は控えているが、散歩や敷地内の活動は継続しており、入居者の生活活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍による外出の機会や本人に買い物の同行によりお金を本人が使用できる機会はないが職員の買い物支援により、その品物の支払い金額を伝えるなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍による面会時窓越しでの対応で電話での会話が出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り季節感がかんじられるよう努めている。	施設内はバリアフリー環境が整っており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、施設内には、季節の飾り付け・入居者の作品や写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人のニーズをお聞きしこれに沿った工夫を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居前から使用していたなじみのものをで きる限りお持ちいただいている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を自 由に持ち込む事が可能となっており、居心地良 く生活できるよう配慮している。また、テレビ・ ポータブルトイレの設置や布団を敷く事も可能 となっており、生活歴に合わせた居室作りがな されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した環境の整備に努めている。		